

平成 17 年度 教育研究業績書

氏名 鎌田道隆

最終学歴	立命館大学大学院文学研究科日本史学専攻修士課程修了
取得学位	博士（文学）
所属学会	日本歴史学会・地方史研究協議会
現在の専門分野	日本近世史
研究課題	日本近世都市史研究・近世庶民生活史研究

【研究上の特記事項】

当年度には、法隆寺史の調査・研究に関わり、法隆寺古文書および東京国立博物館法隆寺宝物館蔵の「聖徳太子絵伝下貼り文書」を調査し、『法隆寺史』第2巻（近世編）の原稿を執筆した。「南都奉行の巡検」（400字50枚）と「江戸の幕府と法隆寺」（400字30枚の2節分）。当該の調査・研究・執筆は、次年度も引き続いて行う。

【教育上の特記事項】

江戸時代のからくり玩具の復元研究を、学生とともに取組み、11月の大学祭で発表させた。また、夏休みには奈良大学からくりおもちゃ教室を3回開催、小学生から一般社会人まで、史学科実習室でからくりおもちゃ作成を指導した（参加者約200名）。さらに、3月には21回目の奈良大学宝来講を実施した（参加者65名）。

【社会的活動】

以下のような講演活動を行った。4/9京都霊山歴史館「京における薩摩藩の動向」7/6奈良大学文化講座「奈良が育てた幕末の政治家」11/5奈良市中央公民館「奈良奉行川路聖謨と北方四島」11/13三重県多気町民文化会館「伊勢本街道一丹と神の道を歩いてー」11/25「全国街道交流会議第4回全国大会「伊勢詣に学ぶ」ほか

【学内活動】（学内職歴を含む）

4/1～9/15奈良大学通信教育部開設記念企画展「奈良へのいざない—絵図に見る旅と街道」7/2朝日・大学パートナーズシンポジウム「歴史と自然に学ぶ～世界遺産学創生をめざして～」にパネリストとして参加、4/1～3/1奈良大学学長在任

著書、学術論文等の名称	単著、 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1				
2				
3				
4				
5				
(学術論文) 近世的都市観の生成－京都・大坂	単著、 共著 の別	2005年 11月	大阪商業大学商業史博物館紀要第6号	京都と大坂について、江戸時代の人々がどのような都市観を育てていたか、具体的に史料から分析した。京都は文化都市、大坂は商業都市との認識を、それぞれの都市構造の実態と合わせながら、差異と一致点を考察した。またそうした都市観がどのようにして生成されたかも分析した。
1	—			
2				
3 加太越え奈良道の研究と現地調査	共著	2006年 3月	奈良大学総合研究所所報第14号	加太越え奈良道は、東海道関宿から、奈良を経て大坂までの街道である。東から来ると京都へ出ないで、奈良への近道、又大坂への近道となる。幕府や大名の公用道ともなったが、奈良へ入る庶民の旅の視点で、加太越え奈良道の歴史と史跡、宿場などを中心に現地調査を行った。現在は街道としての利用がなく、廃道化しつつある所も確認した。共同研究者は、安田真紀
4				
5				
(学会発表)				
1				
2				
3				
4				
5				
(その他)				
1				
2				
3				
4				
5				